

会津藩士と御坊の縁

9日から寺内町会館でパネル展

御坊市は9日から、御坊寺内町会館でパネル展「会津藩士の戊辰戦争（御坊）の人々に助けられた会津藩士」を開催する。

約150年前、山川浩ら会津藩士は鳥羽伏見の戦いで敗れ、御坊に落ち延びた際、小松原村で旅人宿「中屋」を営んでいた中野家の手厚い看護を受けて回復し、無事江戸に戻った。この縁がきっかけで山川と中野家の交流が続いた。御坊と縁の深い会津藩士について広く知ってもらおうと、パネル展を開催することにした。

展示するパネルは、ことし1月中旬まで戊辰150周年を記念して会津若松市歴史資料センター「まなべこ」で展示されていた解説

パネル。会津藩主松平容保（かたもり）が京都守護職に任命されたから鳥羽伏見の戦いなどを経て、会津藩が斗

津藩士の行動や出来事を紹介した9枚と、御坊でのエピソードを説いた山川浩の1枚の計10枚。パネルのほか、御坊



会津若松市からパネルが届き来場をPR

市湯川町財部の往生寺所蔵の会津藩士丸山抱石から贈られたとみられる書、伊藤博文直筆で御坊小学校校長室に飾られていた書「御坊鬻」のレプリカも展示する。

3月下旬ごろまで。

開館日は毎週火、金、土、日、祝日の午前11時から午後4時。多くの来場を呼びかけている。